

強者の戦略

【いよいよ受験勉強本格化、でしょうか】

こんにちは！世界史担当、北林でございます。2017年のこの「強者の戦略」の世界史も、北林が担当させていただきます。よろしくお願いたします。

6月になり、部活動も引退し、本気で受験勉強を考えている人も増えてきた頃でしょう。この問題が掲載されるころには「強者の戦略」に掲載される卒業生たちの原稿も、すべて完成しているころでしょうか(ね？編集長)。私たち講師陣は卒業生に電話をかけて詳しく勉強方法を聞いたりするのですが、飄々と受験勉強を乗り越えたように見える先輩達も、色々と工夫をし、泥臭いとも言える努力を重ね、見えない苦勞をしていることがわかります。7月には皆さんは冊子を見ることができると思います。ぜひ楽しみにしておいてください。

さて、毎年この時期のこの世界史、その年の京都大学の第1問を載せているような気が…でも今年もいって見ましょう。研伸館の世界史講師は、ここ数年、某新聞社さんから依頼をうけて、解答速報を作成しております。後日アップロードされる解答はそのときのものです。

では毎度おなじみの世界史の入試問題へのチャレンジです。

問題 京都大学 2017年

中央ユーラシアの草原地帯では古来多くの遊牧国家が興亡し、周辺に大きな影響を及ぼしてきた。中国の北方に出現した遊牧国家、匈奴について、中国との関係を中心にしつつ、その前3世紀から後4世紀初頭にいたるまでの歴史を300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

まさかの匈奴史でした。ちょっと想定外だった人も多かったかも。ただしひねりはあまりありません。直球です。ぱっと思い出せない人は、中国王朝を中心にして、一つ一つ周辺民族をあげていけばなんとかなるはずです。

いきなり解答を書かなくてもいいので、構想メモ、下書き、を作成してみましょう。現段階では教科書など何を見てもよいので、怖がらず挑戦してください。次週に解答例と解説があがります。